

科目名	西洋史	科目分類	<input type="checkbox"/> 専門科目群 <input checked="" type="checkbox"/> 総合科目群		
			全学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
			学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	
英文表記	European History	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
		開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input checked="" type="checkbox"/> 集中		
ふりがな	なかむら たけし	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	中村 武司	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	近代ヨーロッパとグローバル・ヒストリー				
到達目標	この講義では、16世紀のいわゆる大航海時代から20世紀初頭の帝国主義の時代にいたる世界史を、ヨーロッパにとくに注目して概観する。そのさい、近代ヨーロッパが、アジアやアメリカ、アフリカといった世界の各地域との相互の交流や関係なくしては成立しえなかったことを講義では明らかにしたい。				
授業概要	近代の世界史にかんして、歴史の流れを把握するとともに、基本的な知識や概念、考え方を理解することを目標とする。				
授業計画					
第1回	イントロダクション				
第2回	世界システム分析とは何か				
第3回	前近代ユーラシアの世界システム				
第4回	1571年——グローバル化のはじまり（前）				
第5回	1571年——グローバル化のはじまり（後）				
第6回	17世紀の危機とオランダの繁栄				
第7回	バルト海帝国の盛衰				
第8回	財政軍事国家イギリス				
第9回	大西洋奴隷貿易の展開と廃止				
第10回	東インド会社とアジア				
第11回	環大西洋革命の時代				
第12回	パクス・ブリタニカとイギリス帝国				
第13回	大分岐——ヨーロッパとアジア				
第14回	移民の世紀				
第15回	世界システムと帝国主義の時代				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	授業後、参考文献等を確認したり、ノートを整理したりするなどして、復習の時間（1回あたり1.5～2時間程度）を設けること。				
履修条件 受講のルール	事前に高校世界史の内容を復習して履修するほうが望ましい。 なお、レジュメ等の資料は再配布することはないので、くれぐれも注意すること。				
テキスト	授業中にレジュメ等の資料を配付する。				
参考文献・資料	川北稔『世界システム論講義——ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年） 水島司『グローバル・ヒストリー入門』（山川出版社、2010年）				
成績評価の方法	平常点評価：50%、試験：50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	授業終了後適宜				

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	「歴史とは過去と現在の絶えざる対話」という言葉があります。過去を知るためだけに学ぶのではない、そこに歴史学の醍醐味のひとつがあるのです。